平成26年度筑波大学附属図書館企画展

図書館を飛び出した書物たち

筑波大学附属図書館

平成26年度 筑波大学附属図書館企画展

図書館を飛び出した書物たち

会期　平成26年10月20日（月）～11月21日（金）
会場　筑波大学附属図書館（中央図書館貴重書展示室）
主催　筑波大学附属図書館

附属図書館長ご挨拶

附属図書館企画展「図書館を飛び出した書物たち」に寄せて

附属図書館では、これまで学内組織の協力を得つつ、本学が所蔵する貴重書、和装本、古地図などを広く公開する展示事業をほぼ毎年行ってきております。前回の平成25年度には、開学40周年を記念して「知の開拓者（パイオニア）たち―筑波大学開学40＋101周年記念特別展―」と題し、本学の前身校教員に関わる資料を中心に展示し、好評を博しました。

今回の企画展は、附属図書館の職員が企画し、研究開発室の谷口孝介先生、山澤学先生のご指導のもとに、「図書館を飛び出した書物たち」と題して、教科書や雑誌、テレビなどで日頃目にしている各種資料を展示し、解説致しました。

附属図書館の所蔵資料を出版物等に掲載するための利用申請は、過去30年間で700件以上あります。かつては研究者が専門書や資料集に掲載するための申請が多かったのですが、当館での貴重資料電子化の進展等にともない、近年はテレビやインターネットでの画像の利用等さまざまな用途での申請が行われるようになりました。

本企画展では、それら資料の利用状況を紹介するとともに、良く使われた資料や特色ある資料を選定し、それが掲載された出版物等とあわせて展示致しました。展示は教科書等に掲載されたどこかで目にされたことのある書物、各種研究でとりあげられたお墨付きの古典籍、教育・研究以外の社会的貢献を目的にメディアに飛び出した書物という3つの視点でまとめております。あっ、これ見たことがあるという快感を感じ、こんな資料があったんだという発見をし、そして図書館資料の利用の未来に思いを馳せていただければ幸いです。

附属図書館企画展は、本学に蓄積された豊かな「知」を積極的に内外に向けて発信する、という附属図書館の取り組みの一つです。是非とも多くの方々にご高覧いただければ幸いです。

平成26年10月
附属図書館長　　中山　伸一

凡　例

1. 本書は平成26年度筑波大学附属図書館企画展「図書館を飛び出した書物たち」（会期：平成26年10月20日（月）～11月21日（金））の図録である。
2. 本図録に掲載されている資料は、特に記載のない限り筑波大学附属図書館が所蔵する。
3. 本書の図版番号は、展示資料の番号と一致するが、展示の順序は必ずしも一致しない。また、一部の展示資料については、本図録への掲載を割愛した。
4. 掲載資料の表題等の書誌情報や解題等の漢字表記は、原則として通行の字体に改めた。
5. 本書は、以下の分担により執筆した。

　はじめに、第3部解説　篠塚富士男（附属図書館情報管理課）

　第1部解説　谷口孝介（研究開発室長・人文社会系教授）

　第2部解説　山澤学（研究開発室員・人文社会系准教授）

　資料解題は、企画展ワーキンググループメンバーで分担し、谷口・山澤が監修した。

目　次

附属図書館長ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

はじめに：書物たちの活用が広がる・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第 1 部：いつかどこかで見た書物・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第 2 部：お墨付きの古典籍・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

第 3 部：メディアに飛び出した書物・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

付録：図書館資料の翻刻・影印による出版等の取扱要項・・・・・ 34

図書館資料使用申込書等による二次利用例・・・・・・・・・37

掲載資料一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

はじめに　書物たちの活用が広がる

筑波大学附属図書館は、前身校から引き継いだものをはじめとする多くの貴重な資料を所蔵している。なかでも和装古書等の古典籍には、文学、語学、歴史学等の分野で研究上重要な位置を占めている資料も多数ある。こうした資料の利用については、来館して原本を閲覧する直接利用のほかに、本文のテキストや図版を掲載した出版物等により利用する間接利用の方法があるが、来館せずに自分の手元で資料の内容を見ることができるこのような出版物は、長年にわたり学術文化の研究のために広く利用されてきた。

当館所蔵資料を出版物に掲載するための利用申請は、過去30年間に700件以上にも上っているが、かつては研究者が専門書や資料集に翻刻や影印の形で掲載するための申請が多かった。しかし当館での貴重資料の電子化の進展にともない、近年では、教科書・教材等の教育用出版物への掲載も増加している。さらに、テレビやインターネットでの画像の利用等、一般向けとしてもさまざまな形で所蔵資料が幅広く利用されるようになっており、研究・教育支援だけでなく、社会貢献としての資料の利用という側面も大きくなってきている。また利用されている資料も、「新古今和歌集」などの日本の古典のほか、「鯰絵」「教育錦絵」などの絵画資料、「北野社家日記」「昌平坂学問所日記」などの歴史史料と、幅広い分野にわたっている。

資料の活用の幅が広がっていることを、以下に掲げる当館の「図書館資料使用申込書」（巻末付録参照）の「使用方法」の項目によって具体的に確認してみよう。

使用方法

使用目的：　□出版　□動画作成・放映　□ Web 上での電子的掲載　□展示パネル
□その他（　　）

掲載物名称 (書名・誌名・出版者名／番組名／サイト名・URL ／展示会名等)：

掲載予定日 (出版予定日／放映日／公開予定日／展示期間等)：
平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日

その他 (出版予定価格・部数／放送局名／サイト管理者名／主催者、展示場所等)：

この申込書は、かつては「翻刻・影印許可願」という名称であり、使用目的も図書館資料を翻刻・影印し出版する場合のみを想定していたものであったが、平成20（2008）年に「図書館資料使用申込書」と名称が変更されるとともに現在の書式に改められ、使用目的として、出版（＝翻刻・影印）以外に「動画作成・放映、Web上での電子的掲載、展示パネル、その他」が追加され、図書館がデジタルコンテンツデータを提供する場合の許可条件も申込書に示されるようになった。

本企画展では、これまであまり知られていなかったこのような図書館資料の利用の状況を、これまでの利用申請をもとに紹介するとともに、それらの申請の中から、よく使われた資料、特色ある資料を選定し、それが掲載された出版物等とあわせて展示することで、貴重な資料の活用の状況をご覧いただくこととしたい。

1　南総里見八犬伝（なんそうさとみはっけんでん）　曲亭馬琴（きょくていばきん）著　柳川重信（やながわしげのぶ）ほか画

全9輯98巻106冊　江戸：丁子屋平兵衛

文化11-天保13（1814-1842）年刊

八人の犬士の活躍を記した読本。馬琴の代表作であるとともに、江戸時代の戯作を代表する作品である。表紙には、犬の子や縁起物など犬にちなんだ趣向を凝らしたデザインを用いている。本書は文化11（1814）年に刊行を開始し、28年をかけて天保13(1842)年に完結した。当初は山青堂山崎平八により出版されたが、28年間に3度版元が変わった。当館蔵書は文渓堂丁子屋平兵衛による後刷本であるが、小学校の教材である『社会科資料集6年 2014』（文渓堂）に図版が掲載されている。

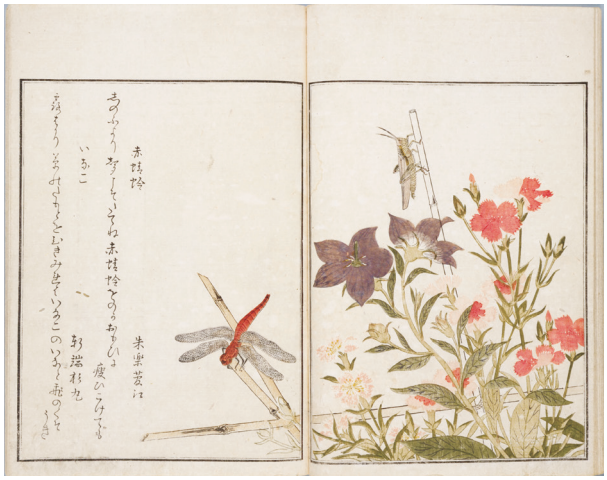
＊本企画展では、開催の趣旨から、①翻刻・影印等の対象となった原本と、②翻刻・影印等の形で二次利用された出版物等を基本的な展示品としているが、「図書館を飛び出した」資料の活用という観点から、③原本を当館で所蔵してはいないが教育・研究上重要な複製本・レプリカも展示している。また、テレビ放送での利用や当館で作成した高精細画像の利用なども展示内容に含めている。なおテレビ放映等も含む二次利用の例を巻末付録に掲げたが、これらの例からも、近年は教科書･教材や、テレビ、分冊刊行の雑誌等、多彩な利用があることわかる。

2　画本虫撰　＜複製＞

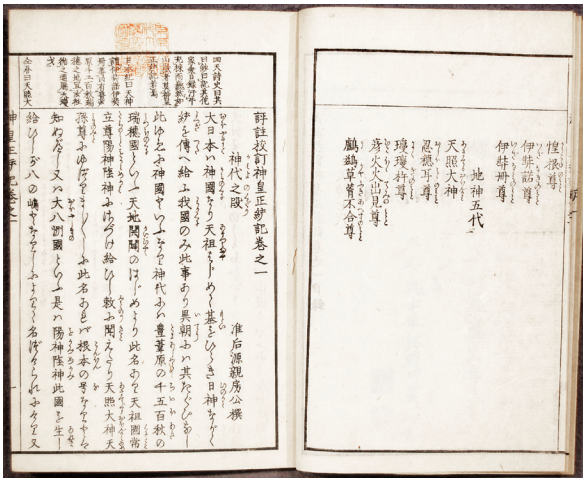
宿屋飯盛（石川雅望）撰　喜多川歌麿画

東京：日本古典文学刊行会, 1975年

江戸時代後期に蔦屋重三郎によって版行された絵入狂歌本。15番の歌合せの形式をとり、蝶、蜻蛉、蜂、虻、芋虫など様々な虫を題材に恋心を詠じた30種の狂歌に添え、美人画の絵師・喜多川歌麿が可憐な草花と虫たちを流麗かつ写実的な筆致で描いている。当館蔵書は、日本古典文学会所蔵の天明8（1788）年刊の初摺本を複製したものであるが、学術研究上重要な資料は、しばしばこのような形で精密な複製が作製され、図書館は幅広い利用者にこうした複製を提供してきた。



参考　国立国会図書館蔵の天明8年刊本
（国立国会図書館デジタルコレクションより転載）



参考　評註校訂神皇正統記　6巻6冊

源親房（北畠親房）撰　川喜多真彦校

京都：大谷仁兵衛ほか　慶応2（1866）年刊

3　神皇正統記　北畠親房著　＜複製＞

吉野町（奈良県）：龍門文庫, 1968年

南北朝時代の歴史書。南朝方の重臣・北畠親房が、東国下向の際に常陸国小田城（現在の茨城県つくば市）で延元4・暦応2（1339）年頃起筆。日本建国神話以降の天皇の系譜について記述し、南朝の正統性を示した。

多くの伝本が存在するが、当館蔵書は公益財団法人阪本龍門文庫が所蔵する室町中期の写本「阿刀本」を複製したもので、本文が簡略で初稿本の系統とされる。その他、慶応2（1866）年刊の『評註校訂神皇正統記』や、同版の明治期の刊本などを所蔵する。

本書は有名な歴史書であるが、本学にとっては地域に関連する資料としての側面も持っており、そうした観点からの利用もある。

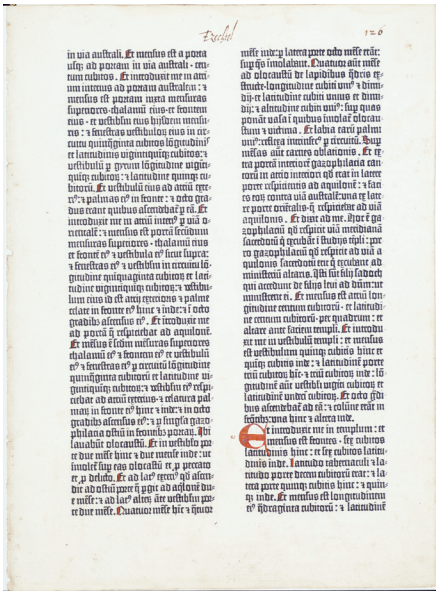
参考　小田城跡案内板（つくば市教育委員会）

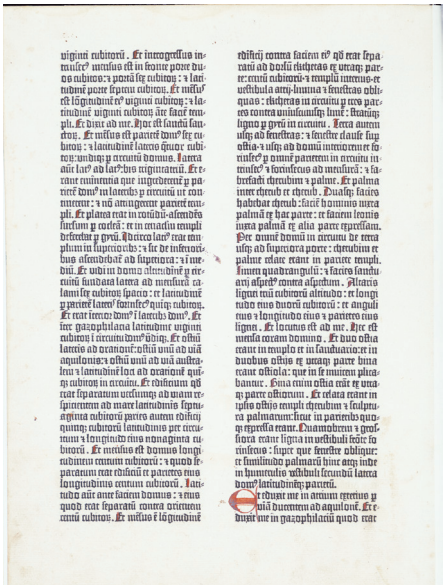
4　グーテンベルク42行聖書零葉
Gutenberg Bible : original leaf.

Mainz : Printer of the 42-line Bible（Johannes Gutenberg）, ca. 1455

活版印刷による世界最初の印刷物として著名な、グーテンベルクの42行聖書の零葉（書物の一部分）。ラテン語で書かれており、本文そのものは黒色で印刷されていて、飾り文字と飾り罫が書き加えられている。

42行聖書には羊皮紙と手漉き紙が使用されたものがあるが、この零葉は手漉き紙で、「走っている（跳んでいる）牛」の透かしが入っていることによってフランスで作られた紙であることが分かっている。 内容は旧約聖書「エゼキエル書」の第40章後半部から第41章全文と、第42章の2行分である。零葉とはいえ、原本が持つ価値は、研究上もきわめて大きい。





参考　グーテンベルク42行聖書 ファクシミリ版
Bibel Johann Gutenbergs. Facsim. ed.

Muenchen : Idion Verlag, 1977

ベルリンのプロイセン文化財団国立図書館所蔵本を底本としたコロタイプによる複製本。最大12色、金箔押し、古色付け、挿絵とエンボス加工を施した美本である。紙には、牡牛の頭の透かしが入った手漉き紙を用いている。当館蔵書は895部印刷されたうちの、311番目のもの。本書により世界的な稀本の全体像を実際に見ることができる、非常に貴重な資料である。

第１部　いつかどこかで見た書物

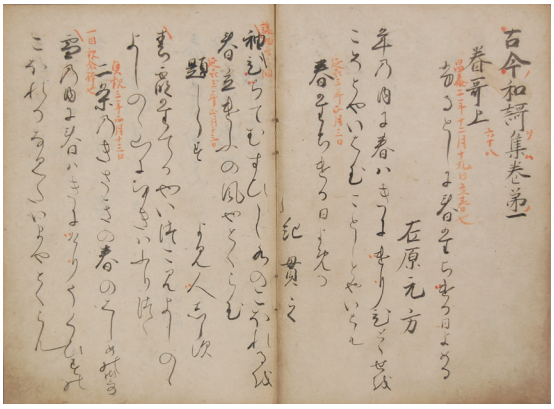
「男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり」。多くの方が見覚え聞き覚えのある「土左日記」の冒頭文であるが、今回展示されている本では、「おとこもすといふ日記といふ物ををむなもして心みむとてするなり」と読める。展示の本は「百人一首」の編者として有名な藤原定家自筆本の複製である。教科書などで諳んじている冒頭の文章は、定家の子息である藤原為家の写本に基づくものである。どうしてわたしたちは権威があるはずの定家自筆本で「土左日記」を読むことをせずに、子息の写した本で読むことになったのであろうか。その主な理由は、書写時定家は73歳という高齢で、眼前の紀貫之自筆本を忠実に書写できなかったことにあるという。つまり定家本はおおよその意を取る形での書写であった。しかし驚くべきこととして、定家はこの本の末尾１葉分のみは、紀貫之自筆本を書体まで真似て写し取ったのである。いわゆる臨模である。これにより奇跡的に10世紀前半、貫之の筆跡の面影が知られるのである。展示は複製ではある。しかし複製本を見ることによって、老齢の定家の筆の揺れ、おそらくは精魂を傾けて筆写したであろう貫之の筆勢を窺うことができるのである。本学には複製本の一大叢書、前田尊経閣叢刊を初めとした、今となっては複製本自体が貴重とも言える名著の複製本が蔵されている。教科書等に掲載され教育の場でもよく取り上げられるとともに、研究史上も著名な書物も、その多くが複製本として作製されているが、その一端を紹介することで、複製本・覆刻本の持つ意味合いを考える縁としたい。

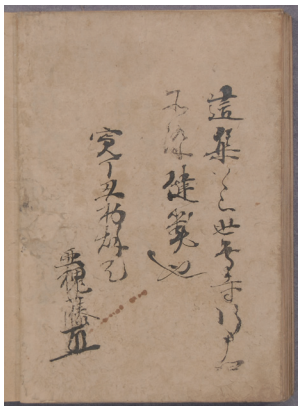
5　古今和歌集　２冊　伝世尊寺行尹筆

江戸時代初期以前写

延喜５（905）年に醍醐天皇の勅命を受け、紀貫之、紀友則、凡河内躬恒、壬生忠岑らが撰したわが国最初の勅撰和歌集。全20巻、歌数は約1100首で、かなと漢字で書かれた二つの序文がある。当館蔵書は、藤原行成を祖とする書流13代の世尊寺行尹筆とされ、漢字で書かれた真名序を有する（下巻末に寛永14（1637）年に烏丸光広（亜槐藤）が世尊寺行尹筆と認めた極書がある）。

古今和歌集は、各時代を通して第一級の作品として享受され、写本も多く、代表的な写本は複製本が出版されている。当館では完本として現存最古の写本である元永本や、定家本にはない異本歌などを多く含み、院政期の歌学者である藤原清輔が写し注釈を付した清輔本などの複製を所蔵している。





烏丸光広の極書

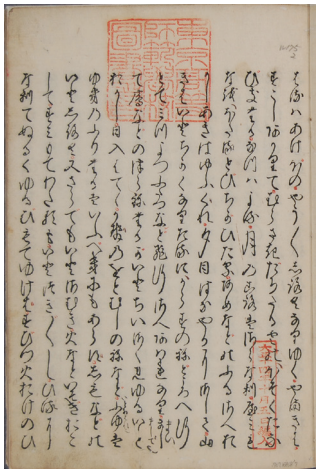
6　前田本枕草子　４冊　清少納言著　＜複製＞

東京：育徳財団, 1927年（尊経閣叢刊）

平安時代中期、一条天皇の中宮定子に仕えた女房清少納言により執筆されたとされる随筆。作者の宮仕えの体験などを、類聚・随想・日記などの形式で約300の章段に綴ったもので、人生や自然、外界の事物の断面を鋭敏な感覚で描く。

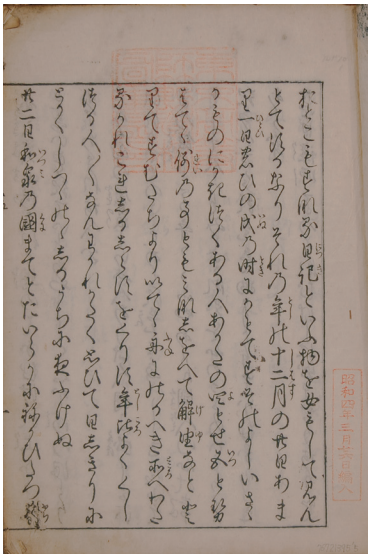
本書は前田家尊経閣文庫で所蔵する「前田本」の複製である。前田本は、現存する諸伝本のうちで最も古い鎌倉中期ごろの書写とされており、類聚・随想・日記の章段がそれぞれ一まとまりに分類整理されているのが特徴である。

なお、当館には今日の流布本系統である三巻本系の、寛永年間刊の古活字本５巻や慶安２（1649）年刊の４巻本なども蔵している。



参考　清少納言　５巻５冊

寛永年間（1624-44）刊　古活字本



7　土左日記　紀貫之著　＜複製＞

東京：育徳財団, 1928年（尊経閣叢刊）

紀貫之が任地である土佐国から京に帰るまでの55日間の旅をもとに記した日記文学。承平５（935）年ころの成立とされ、成立年代の確かな和文叙事作品として最古のもの。筆者を女性に仮託してほとんどを仮名文で綴っている。

伝本のうち、前田家尊経閣文庫が所蔵するのは、文暦２（1235）年に貫之自筆本を藤原定家が書写したとされる「定家本」である。当館蔵書はこの「定家本」の複製で、冒頭が「おとこもすといふ日記という物を」で始まり、現在目にする文とは異なっている。なお、当館では参考として掲出した流布本系の万治３（1660）年刊本なども蔵している。

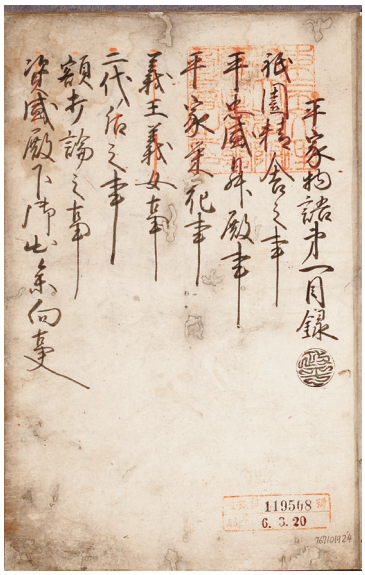
参考　土佐日記

京：秋田屋平左衛門, 万治３（1660）年刊

8　平家物語（へいけものがたり）　12巻10冊（巻10,11欠）　榎本美濃筆

文禄4（1595）年写

栄華を極めた平家一門の滅亡を描いた軍記物語。「祇園精舎の鐘の声・・・」から始まる冒頭は有名である。多くの伝本のうち当館蔵書は文禄本とよばれ、平曲の流派八坂流が確立した室町初期の語り本系の本文を有している。人名、地名、官名などに朱の縦線を付しており、朱の句点も打たれている。『複刻日本古典文学館　平家物語』（日本古典文学刊行会）は、当館蔵書を底本とし、装丁や朱線を忠実に再現した複製本である。



用語について

筑波大学附属図書館が所蔵・公開している資料を、出版、放映、Web上に掲載、展示しようとする時は、「図書館資料使用申込書」を提出し、附属図書館長の許可を得る必要がある。この申込書（＝図書館資料の利用申請）に関連して、本企画展で使用している用語についてまず辞書によって定義を確認しておきたい。以下の説明は『広辞苑』第6版（岩波書店、2008）による（必要部分のみ引用）。

翻刻（ほんこく）：写本・刊本を底本として、木版または活版で刊行すること。翻印。

影印（えいいん）：書籍の文面を写真にとり製版・印刷すること。写真版。

覆刻・復刻・複刻（ふっこく）：

①原本そのままに再製すること。また再製したもの。

②版本を重刊する場合、原版の刷紙を版木に裏返しに貼りつけて彫版・刊行すること。かぶせぼり。

③活字版などを写真製版により再刊すること。

複製（ふくせい）：もとの物に模した物を作ること。特に、書籍・美術品などを原形のままに模して作ること。また、そのもの。

底本（ていほん）：もととなすべき本。特に、翻訳・翻字・本文校訂などに当たって、主な拠りどころとした本。そこほん。

定本（ていほん）：異本を校合して誤謬・脱落などを検討・校正し、その書物の標準となるように本文を定めた書。

レプリカ：模造品。複製品。模写。模作。

一方、こうした辞書の定義とは別に、実務上の問題から、個々の図書館でさらに細かく用語の定義をしている例がある。

9　北野天神縁起（きたのてんじんえんぎ）　**9巻9軸**　　**＜複製＞**

東京：大塚巧藝社, 1927年

菅原道真を祭神とする京都北野天満宮の縁起を記した絵巻物。菅原道真（すがわらのみちざね）の生涯や死後の怨霊（おんりょう）説話、北野天満宮の由来・霊験が描かれている。当館蔵書は、北野天満宮所蔵の９巻本の複製である。９巻本は承久元（1219）年の作とされ、現存する天神縁起の原本とみなされるところから根本縁起と呼ばれる。

○「国立国会図書館所蔵資料の復刻／翻刻を希望される方へ」より
http://www.ndl.go.jp/jp/service/copy_reprint.pdf

当館所蔵資料の半分を超える複写物を出版物（電子出版物を含む）へ掲載する場合は、当館において「復刻／翻刻」と整理され、「復刻／翻刻許可申請書」の提出が必要です。

包装紙やパッケージ、商品への掲載等はご遠慮いただいております。

復刻：当館に所蔵する原資料の半分を超える範囲を、出版物に写真図版として掲載する場合を指します。
単に資料の字句を底本として利用するだけの場合は含みません（この場合は申請不要です）。

翻刻：当館に所蔵する原資料の半分を超える範囲を、原資料の１ページの行数、１行の文字数を完全に維持した形で、原資料の文字を活字体等に置き換えて掲載する場合を指します。レイアウトの都合で、原資料の行数や文字数を変更して利用された場合は含みません（この場合は申請不要です）。

復刻・翻刻：上記「復刻」と「翻刻」を出版物内に同時に掲載された場合を指します。申請書の「復刻」「翻刻」双方に丸を付けてください。

転載：当館所蔵資料を復刻／翻刻した資料から孫引き掲載する場合。転載については、掲載元の許諾を取付けていただければ、当館への許可申請は必要ありません。

○ 東京大学総合図書館「資料の特別利用（掲載・撮影・出陳・翻刻等）」より
http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sogoto/contents/special.html

▪ 翻刻許可申請が必要な場合
・該当史料の半分を超える部分について活字化が行われる場合に「翻刻」とし，「特別利用許可願（翻刻）」が必要となる。
・該当史料の半分以下の活字化の場合は「部分引用」とし許可申請は不要とする。

これらの例に見るように、図書館の実務上は、翻刻とは「原資料の文字を活字体等に置き換えて掲載」することを指す、という理解が一般的であると思われ、当館においても同様の理解で対応している。ただし、上の二つの例では「原資料の半分を超える範囲」の利用の場合に申請が必要とされているが、この分量については図書館によって基準が異なると考えられ、当館では分量の規定はない。

10　絵本拾遺信長記　前編13編・後編10編23冊　丹羽桃渓, 多賀如圭画

摂津：播磨屋五兵衛ほか, 享和3-文化元（1803-1804）年刊

織田信長の一代記とされ、天正10（1582）年に本能寺に倒れるまでの、天下統一を志して活躍した軍記を絵本にした作品。本書は、初編が丹羽桃渓の画で享和3（1803）年刊行、後編は多賀如圭の画で文化元（1804）年の刊行。

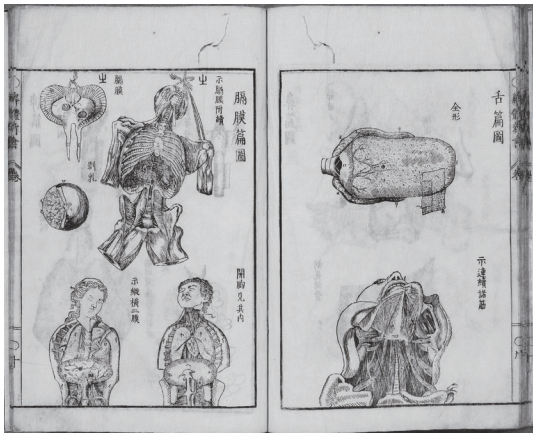
当館蔵書は保存状態も良く、信長最大の難関だった一向一揆について門徒衆が列をなし一揆に向かう図版が多くの歴史書などに引用されている。なお、本書は刊行後、文化元（1804）年の絵草紙取締令により天正年間以降の武将に関する記事が厳禁となったため、版木および版本が没収される処分を受けた。

11　解体新書　ヨハン・アダム・クルムス　杉田玄白ほか訳　小田野直武画

江戸：須原屋市兵衛, 安永3（1774）年刊

ドイツ語の原典"Anatomische Tabellen"のオランダ語訳『ターヘル・アナトミヤ（解剖学表）』（1734年刊）を漢訳した書で、西洋科学書の日本最初の本格的な翻訳書である。解体図は小田野直武の模写によるもので、原典の図だけでなく他の西洋医学書の図も加え、記号によって出典を明らかにしている。

解体図の扉画が教科書によく掲載されているが、東京書籍の日本史教科書は当館所蔵本の図版を使用している。



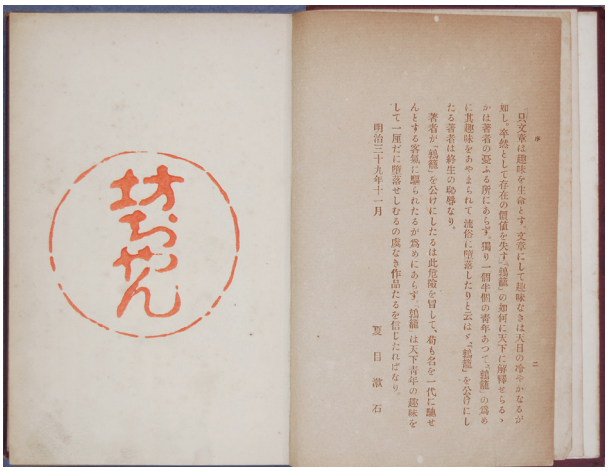
12　坊っちゃん：夏目漱石自筆全原稿　夏目漱石著　＜複製＞

東京：番町書房，1970年

小説『坊っちゃん』は、明治39（1906）年に雑誌「ホトトギス」にて発表された。本書は、夏目漱石直筆原稿の複製で、全葉を収録している。

漱石特有の筆跡を楽しめるだけでなく、作品を創作する上での推敲が見て取れ、書き直しの後や注などから作者の表現に対するこだわりや文脈の意図を感じ取ることができる。文化的にも学術的にも貴重な資料の一つである。

なお、当館は「坊っちゃん」の初出単行本『鶉籠』（春陽堂、1907年刊）も蔵している。同書は「只文章は趣味を生命とす」とする漱石初期の文学観を表す自序を冠して、他に「二百十日」、「草枕」を収める。



参考　鶉籠　夏目漱石著

12版　東京：春陽堂，明治45（1912）年

13　みだれ髪　与謝野晶子著　＜複製＞

東京：日本近代文学館，1968年

歌人与謝野晶子の第1歌集。明治浪漫主義の代表的作品。情熱的で斬新な作風は大きな衝撃を社会に与え、賛否両論が唱えられた。序文には、「この書の体裁は悉く藤島武二先生の意匠に成れり　表紙画みだれ髪の輪廓は恋愛の矢のハートを射たるにて矢の根より吹き出でたる花は詩を意味せるなり」とあり、洋画家の藤島武二による装丁である。当館蔵書は、東京新詩社が発行した明治34（1901）年初版の複製。

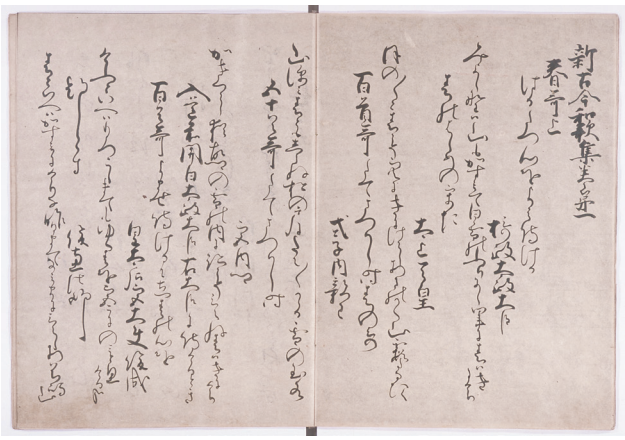
第２部　お墨付きの古典籍

筑波大学附属図書館の資料には、学内・学外の研究者によって広く活用され、その学術的な価値を認められた、いわば「お墨付きの古典籍」が数多く所蔵されている。手稿本や版本のなかには、世界中で当館にしか所蔵されていない、唯一無二の貴重本がある。また、各地に多くの写本が残されている場合でも、もっとも良質であると評価されている著名な写本もある。そのため、翻刻や影印、復刻などに際し、重要な底本として使用され、二次文献となって利用されている例も少なくない。これらの「お墨付きの古典籍」の多くは、近年電子化が進められ、その結果、以前にも増して容易に活用できるようになっている。本学の図書館資料は、142年前に設立された師範学校に始まる数多くの前身校、そして41年の年輪を刻む本学において、近代的な学問を開拓し、発展させるなかで集積された「知」の証（あかし）でもある。ここでは、グローバルな現代において、ますます重要視され、活用されている優品の一部を、それらに「お墨付き」を与えた研究書・翻刻本などとともに紹介する。

14　新古今和歌集（しんこきんわかしゅう）　20巻2冊　山崎宗鑑（やまざきそうかん）筆

室町時代中期写

建仁元（1201）年、後鳥羽上皇の勅命（下命）によって撰集された第８番目の勅撰和歌集。撰者は、源通具（みなもとのみちとも）をはじめとする６人。優雅で繊細な調べ、耽美的な歌風は「新古今調」といわれ、三大歌風のひとつとして尊重された。当館蔵書は、室町時代の連歌師山崎宗鑑の筆とされる。上冊第１葉に鑑定家古筆了祐（こひつりょうゆう）による「山崎住宗鑑」とする極札（きわめふだ）が添付されており、古典籍の蔵書家として名高い大島雅太郎（おおしままさたろう）氏（青谿書屋（せいけいしょおく））旧蔵である。現存する同和歌集のなかで最も信頼される伝本の一つとされ、峯村文人校注・訳『新編日本古典文学全集　新古今和歌集』（小学館）の底本に採用された。



古筆了祐の極札

15　種生伝　篠田厚敬著

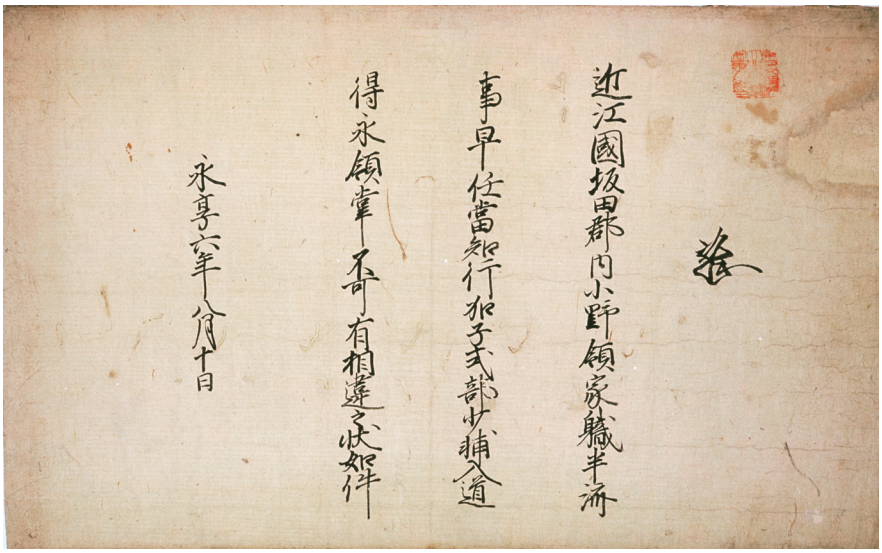
京都：出雲寺和泉掾，正徳３（1713）年刊

外題は「兼好法師行状」。『徒然草』の作者、兼好法師の伝記物語。江戸前期には『徒然草』が大流行するとともに、兼好は晩年を伊賀国種生で過ごし、そこで没したという説が流布していたが、本書はこの説により兼好の生涯を歌物語風に描いたもの。当館蔵書は、正徳２年刊本から本文の一部と刊記を修訂した正徳３年修訂本であり、本文の修訂は誤字訂正等約20箇所を数える。完成度の高さから、川平敏文編注『近世兼好伝集成』（平凡社）の底本に採用された

16　足利義教袖判御教書（北野神社文書）

永享６（1434）年８月10日

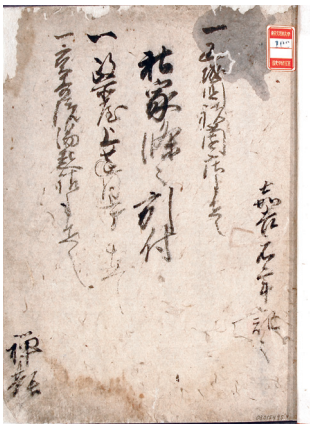
北野神社文書は、昭和20年代前半に東京文理科大学国史学教室によって購入されたもので、北野神社（北野天満宮）祠官松梅院旧蔵の文書・記録群である。文書には、右筆が本文を書いた後に室町幕府の将軍が花押を書いて直接発給する御教書形式の文書が多数含まれる。花押が文書の袖（右側の空白）に据えられた袖判御教書の一つである本文書は、近江国小野における領家職について、６代将軍義教が当知行する加子式部少輔入道の半済を承認したもの。上島有『中世花押の謎を解く』（山川出版社）では義教が用いた代表的な公家様花押として紹介される。翻刻は田沼睦校訂『北野神社文書：筑波大学所蔵文書（上）』（続群書類従完成会）を参照。



17　社家条々引付（北野社家日記）　松梅院禅融

嘉吉元（1441）年

北野神社文書のうち、祠官松梅院の公務日誌は『北野社家日記』として翻刻・刊行中で、近く第９巻が刊行される予定である。その内容は、北野社内のことはもちろん、室町後期から江戸初期における政治情勢、京都を中心とした社会・生活・経済・文化の様子まで多様である。『北野社家日記』第７巻（続群書類従完成会）所収の本史料は、将軍義教暗殺前後の情況を知ることができ、比叡山延暦寺（山門）の大衆が「集会」を開き、「一揆」して根本中堂を「閉籠」したさいの事書の写が収められ、三枝暁子『比叡山と室町幕府』（東京大学出版会）によって考究された。



18　壬戌日暦（昌平坂学問所日記）

文久２（1862）年

寛政改革のさいに創立された昌平坂学問所の関係文書は、昭和20年代前半に東京文理科大学教育学教室によって購入されたもので、林述斎・佐藤一斎ら著名な朱子学者の書簡や学問所の公務日記・記録を含む。日記は、斯文会・橋本昭彦編『昌平坂学問所日記』全３巻（斯文会）に全文活字化された。

本史料は文久２年の１年分の日記で、閏８月18日条に、湯島聖堂で孔子を祀る釈奠を執行したことが見える。詳細は筑波大学・斯文会編『草創期の湯島聖堂』（清流出版社）を参照。

19　編纂本朝尊卑分脈図　3巻3冊

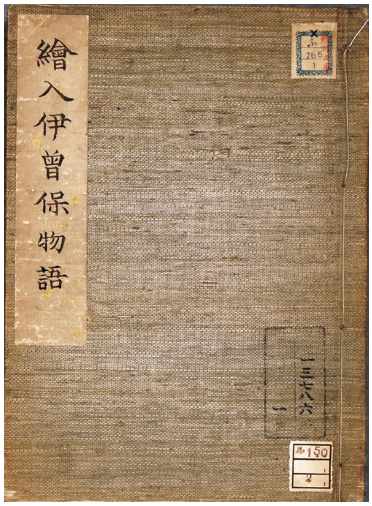
嘉永年間（1848-54）刊

外題は「編纂本朝尊卑分脈図脱漏」で、丹鶴叢書の外書。丹鶴叢書は江戸時代末期の紀州家付家老で新宮城（一名・丹鶴城）の城主であった水野忠央が開版したもので、校訂の精確さや版刻の精美さで近世刊本の傑作とされる。伝本は少なく、当館蔵書は極めて状態が良いため、『定本丹鶴叢書　編纂本朝尊卑分脈図脱漏』（大空社）の底本となっている。

20　伊曽保物語　3巻1冊

伊藤三右衛門, 万治２（1659）年刊

「イソップ物語」の邦訳で、訳者不詳。「伊曽保物語」には、文禄２（1593）年にイエズス会天草学林から出版されたローマ字口語体の天草本（キリシタン版）と、後に文語体の日本語で出版された仮名草子とがある。本書は万治２年刊の仮名草子で、絵入本としては最古の版である。同種の版本は、武藤禎夫『絵入り伊曽保物語を読む』（東京堂出版）で影印・翻刻されている。

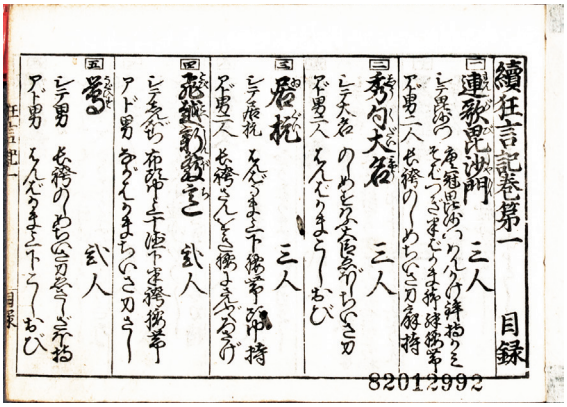


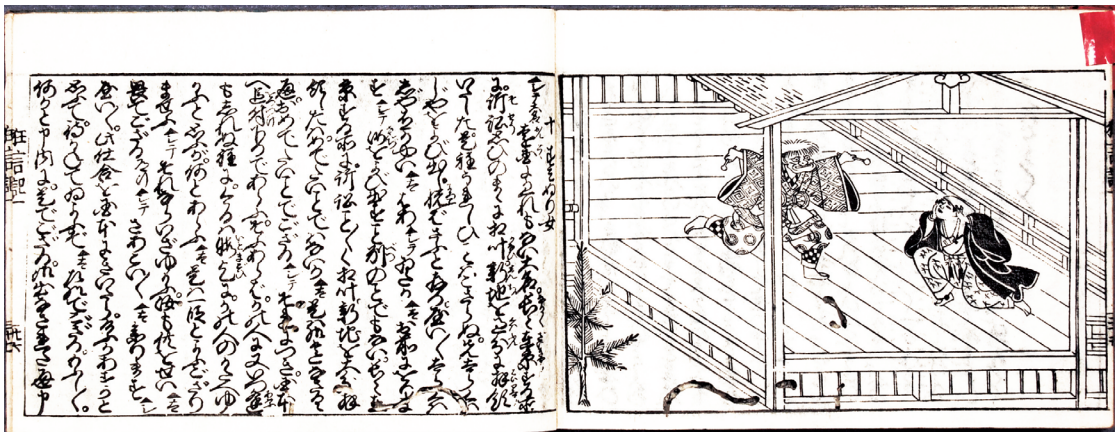
21　続狂言記（ぞくきょうげんき）　5巻5冊

京：八尾平兵衛ほか

元禄13（1700）年刊

「狂言記」は、江戸時代に読み物として流布した狂言の絵入台本集である。『狂言記』『狂言記外五十番』『続狂言記』『狂言記拾遺』の4種があり、本書はその3番目に刊行されたもの。1巻に10曲ずつ、計50曲の台本が収録されている。詞章の出自は明らかでないが、歌舞伎成立に関与した群小諸派によるものとする説がある。当館蔵書は、北原保雄・小林憲次著『続狂言記の研究』（勉誠社）に影印・翻刻されている。

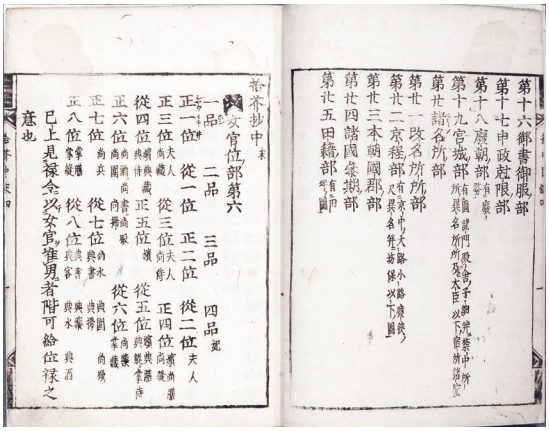




22　拾芥抄（しゅうがいしょう）　3巻6冊

京：村上勘兵衛，明暦２（1656）年刊

「略要抄」または「拾芥略要抄」ともいう。編者は洞院公賢（とういんきんかた）で、洞院実熙（さねひろ）補とされる。室町時代に成立した一種の百科事典で、室町時代の有識や、天文、地理、虫魚草木などを簡単に解説する。「第23 本朝国郡部」に収録されている行基作と伝わる日本図は、東北地方が丸く潰れており、当時の日本の捉え方をよく表している。平成19年度当館企画展「古地図の世界」の電子展示では、この行基図の合成画像を作成・公開しており、その画像がしばしば引用されている。



行基図（合成画像）

23　東叡山名所（とうえいざんめいしょ）　菱川師宣（ひしかわもろのぶ）画

三河屋七右衛門，天和２（1682）年刊

東京上野の寛永寺は山号を「東叡山」という。現在の上野公園を含む広大な敷地に多くの伽藍を有し、桜の名所としても名高い一大行楽地であった。本書は江戸庶民の人気スポットであった東叡山とその周辺の名所を紹介したものである。市井の人々の姿を生き生きと描いているのは、「見返り美人図」で有名な浮世絵版画の祖菱川師宣とされている。当館蔵書は、唯一現存を確認できる資料であることから、稀書複製会から昭和12（1937）年に複製本『東叡山名所』が作成され、広く研究に供されている。

24　女歌仙新抄　菱川師宣画

天和2（1682）年刊

女流歌人36人の和歌を1首ずつ取り上げ、注釈と歌意画（歌内容を絵で表した画）を付した書。鎌倉期成立の「女房三十六人歌合」の絵入解釈本で、江戸初期の浮世絵師菱川師宣の画とされる。本書は当館と天理大学附属天理図書館のみの所蔵が知られる稀本であり、『天理図書館善本叢書 師宣政信絵本集』刊行の際に、天理図書館本の落丁を補完するため当館所蔵本が使用された。

25　琵琶行・長恨歌

寛永年間（1624-44）刊　古活字本

「琵琶行」「長恨歌」は、共に唐代の詩人白居易（白楽天）の代表作。原文は漢文の七言古詩であるが、本書は中国説話を歌物語風に和訳した説話集「唐物語」から、この2作を抄出した仮名草子である。現在、当館所蔵本を含め3点のみ所在が確認されている。

巻頭の挿絵では、船上で琵琶の音を聴く白楽天が描かれ、哀愁を一層際立たせる。

26　住吉物語絵巻（すみよしものがたりえまき）　2軸

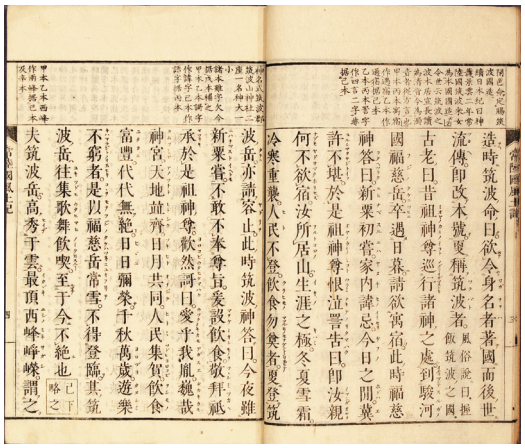
室町時代初期-中期作　奈良絵巻

鎌倉時代の中世王朝物語である「住吉物語」を絵巻仕立てにしたもの。主人公の姫君が様々な迫害に遭いながらも最後には幸せになり、継母は人々に疎まれながら世を去るという典型的な継子物語である。

本絵巻は零巻（不完全本）で、改装補修の際の補写が見られるものの、制作年代が古く、貴重かつ秀麗な絵巻である。当館開館10周年記念絵葉書など、学内広報でもしばしば引用されてきた。

第３部　メディアに飛び出した書物

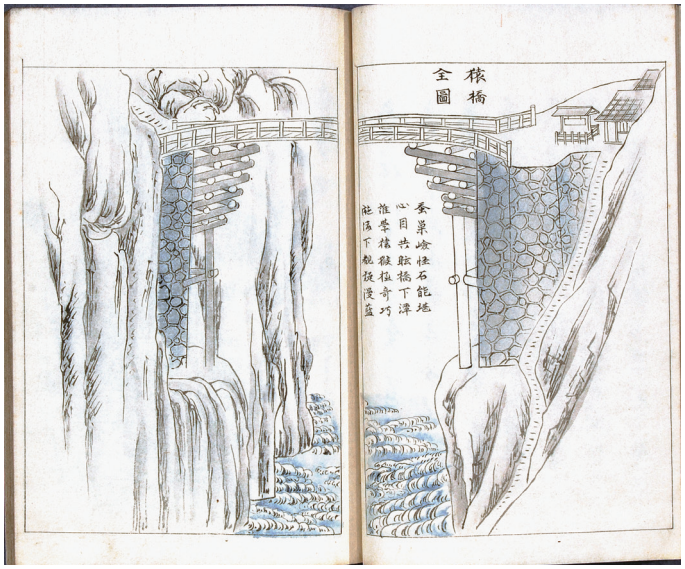
図書館資料の利用について、教育と研究の観点から具体的に見てきたが、貴重な資料の電子化とその公開が進んだことにより当館所蔵資料の可視性が向上し、それに伴ってテレビ放映や分冊刊行の雑誌への掲載、団体や企業のPR誌等の広報用など、さまざまなメディアに当館資料が利用されるようになった。また、東日本大震災以降に鯰絵が防災教育用に利用されている例のように、社会的な関心事に応えるために資料を利用したいという希望も増えている。このように、世の中における図書館資料の活用の幅が大きく広がってきており、教育用、研究用に続く、第三の利用法ともいえるこうした一般向けの利用は今後も増加していくことが予想される。また、古地図や絵画資料をはじめ、彩色された図版のある資料等については、これまで主流だった「利用者（研究者）が撮影した原本の写真」の利用ではなく、「当館で作成したカラーのデジタル画像（高精細画像）」の利用希望も激増している。このような状況は今後も続くと考えられるが、大学の社会貢献の観点からも、社会の動向とそれに伴う外部利用の変化を、図書館としても十分認識して適切に対応していく必要があるだろう。



27 常陸国風土記（ひたちのくにふどき）　西野宣明（にしののぶあき）校

水戸：聽松軒，天保10（1839）年刊

奈良時代の和銅6(713)年に元明天皇の詔によって編纂された常陸国(現在の茨城県)の地誌。新治・筑波・行方など各郡の土地の様子、産物、伝承が具体的に記されており、日本古代史や郷土史の基本資料として利用されることが多い。本書は天保10（1839）年に水戸藩士・西宮（西野）宣明により校訂されたもので、本文上部に諸書を引用しつつ考証をしている。「常陸国風土記」編纂1300年を迎えた2013年には、県内各所で展示会が開催され、当館蔵書も複数機関で展示された。



28　官遊紀勝　渋江長伯著

直曲庵主人，文化13（1816）年写

徳川将軍家に仕えた本草家・渋江長伯が文化6（1809）年に甲斐（現在の山梨県）を訪れた際の紀行文。「江君確亭紀行」ともいう。道中の風景や史跡、村々の様子を学者らしく優れた観察眼で克明に記しており、当時の旅行気分が味わえる内容である。特に挿絵は秀逸で、現在の風景写真と比較するとその精緻さがわかる。本書は写本が数点しか現存せず、当館蔵書は中でも良本である。本書には山梨県の研究者による研究書もあり、多数の美麗な挿絵が描かれていることもあって、甲斐の地域資料としての側面からも利用されている。

29　往昔越後国之図　三郎兵衛信慶図　藤原嘉長写

元治元（1864）年写

本図はいわゆる歴史図で、寛治3（1089）年に三郎兵衛信慶が描いた原図を文政10（1827）年に写し、さらにこれを元治元（1864）年に藤原嘉長が写した、という伝来の状況が図中に記されているが、図中の地名から後世の偽作であるといわれている。しかし、絵図中央に半島状に突き出た部分に「寛治6年に大波で打ち崩れ、また海となる」旨の記述もあり、偽図と言うよりも江戸時代の人が昔の越後（現在の新潟県）を想像して描いたという性格の地図として興味深い。本図は『絵図学入門』（東京大学出版会）等に図版として掲載されている。

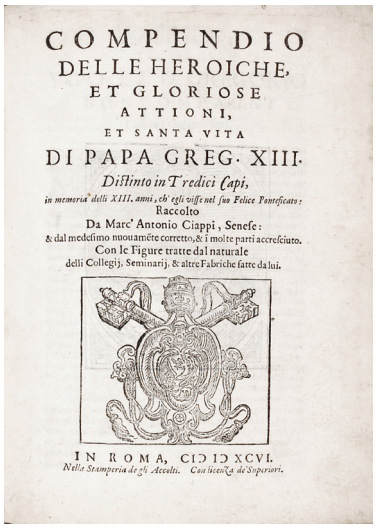
30　教皇グレゴリオ13世伝

Compendio delle heroiche, et gloriose attioni, et santa vita di Papa Greg. XIII.

チアッピ（Marc' Antonio Ciappi）著　ローマ：1596年

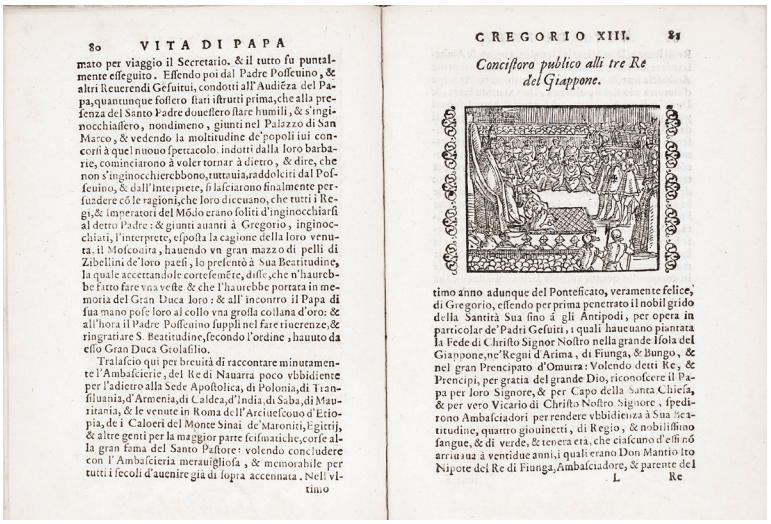
グレゴリオ13世（Gregorio XIII 1502-85）は、ローマ教皇としてイエズス会の科学・教育事業を援助し、インド及び日本布教にも強い関心を寄せた。従来不備のあったユリウス暦を廃止し、新しくグレゴリオ暦に改めたことは現代にも残る功績である。

本書には、1585（天正13）年3月13日に九州のキリシタン大名の使節団である天正遣欧使節がグレゴリオ13世に謁見した際の様子や、日本人聖職者の養成と上流子弟の教育を目的として設立されたセミナリヨが挿絵として描かれており、日本におけるキリスト教の歴史資料として教材などの挿絵に使用されている。



COMPENDIO
DELLE HEROICHE,
ET GLORIOSE
ATTIONI,
ET SANTA VITA
DI PAPA GREG. XIII.
Distinto in Tredici Capi,
in memoria delli XIII. anni, ch' egli visse nel suo Felice Pontificato:
Raccolto
Da Marc' Antonio Ciappi, Senese:
& dal medesimo nuouamẽte corretto, & i molte parti accresciuto.
Con le Figure tratte dal naturale
delli Collegij, Seminarij, & altre Fabriche fatte da lui.

IN ROMA, CIↃ IↃ XCVI.
Nella Stamperia de gli Accolti. Con licenza de' Superiori.



80　VITA DI PAPA

mato per viaggio il Secretario. & il tutto fu puntalmente esseguito. Essendo poi dal Padre Posseuino, & altri Reuerendi Gesuiti, condotti all'Audiẽza del Papa, quantunque fossero stati istrutti prima, che alla presenza del Santo Padre douessero stare humili, & s'inginocchiassero, nondimeno, giunti nel Palazzo di San Marco, & vedendo la moltitudine de' popoli iui concorsi à quel nuouo spettacolo, indotti dalla loro barbarie, cominciarono à voler tornar à dietro, & dire, che non s'inginocchierebbono, tuttauia, raddolciti dal Posseuino, & dall'Interprete, si lasciarono finalmente persuadere cõ le ragioni, che loro diceuano, che tutti i Regi, & imperatori del Mõdo erano soliti d'inginocchiarsi al detro Padre: & giunti auanti à Gregorio, inginocchiati, l'interprete, esposta la cagione della loro venuta, il Moscouita, hauendo vn gran mazzo di pelli di Zibellini de' loro paesi, lo presentò à Sua Beatitudine, la quale accettandole cortesemẽte, disse, che n'haurebbe fatto fare vna veste & che l'haurebbe portata in memoria del Gran Duca loro: & all'incontro il Papa di sua mano pose loro al collo vna grossa collana d'oro: & all'hora il Padre Posseuino suppli nel fare riuerenze, & ringratiare S. Beatitudine, secondo l'ordine, hauuto da esso Gran Duca Geolasilio.

Tralascio qui per breuità di raccontare minutamente l'Ambascierie, del Re di Nauarra poco vbbidiente per l'adietro alla Sede Apostolica, di Polonia, di Transiluania, d'Armenia, di Caldea, d'India, di Saba, di Mauritania, & le venute in Roma dell'Arciuescouo d'Etiopia, de i Caloeri del Monte Sinai de' Maroniti, Egittij, & altre genti per la maggior parte scismatiche, corse alla gran fama del Santo Pastore: volendo concludere con l'Ambascieria merauigliosa, & memorabile per tutti i secoli d'auenire già di sopra accennata. Nell'vl-

timo

GREGORIO XIII.　81

Concistoro publico alli tre Re del Giappone.

timo anno adunque del Ponteficato, veramente felice, di Gregorio, essendo per prima penetrato il nobil grido della Santità Sua fino à gli Antipodi, per opera in particolar de' Padri Gesuiti, i quali haueuano piantata la Fede di Christo Signor Nostro nella grande Isola del Giappone, ne' Regni d'Arima, di Fiunga, & Bungo, & nel gran Prencipato d'Omurra: Volendo detti Re, & Prencipi, per gratia del grande Dio, riconoscere il Papa per loro Signore, & per Capo della Santa Chiesa, & per vero Vicario di Christo Nostro Signore, spedirono Ambasciadori per rendere vbbidienza à Sua Beatitudine, quattro giouinetti, di Regio, & nobilissimo sangue, & di verde, & tenera età, che ciascuno d'essi nõ arriuaua à ventidue anni, i quali erano Don Mantio ito Nipote del Re di Fiunga, Ambasciadore, & parente del

L　Re

40　VITA DI PAPA

Seminario nella Città d'Arimà, nel Giappone.

Seminario in Anzucci, prencipale Fortezza nel Regno del Giappone.

lo,

GREGORIO XIII.　41

lo, ordinando al suo Collettore di colà, che li pagasse alli Padri Prouinciali Giesuiti di quei Regni. Et similmente à tutti li predetti Seminarij, & Collegij questo generosissimo Prencipe non solo prouidde di grosse entrate per loro sostegno, ma anco magnificamente fabricò loro sontuosi edificij, habitationi, & Chiese, non ad altro fine, se non per propagare, & aumentare la Santa Fede, & estirpare le sette contrarie.

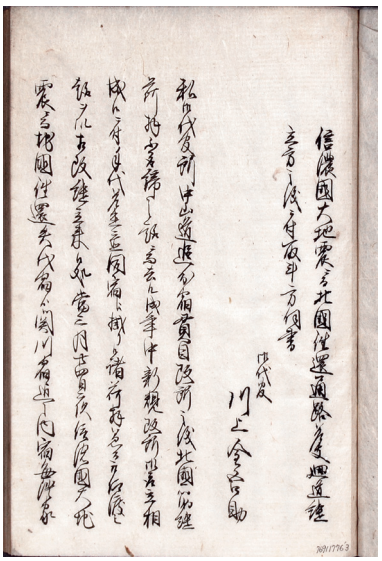
Tutto ciò il glorioso Pontefice, non per immortalarsi in questo secolo, fece, di cui non si vede cosa stabile, ò permanente, ma per zelo che haueua, come supremo Vicario, & buon Pastore, del Gregge di Christo, per essaltare, & innalzare la Santa Romana Catolica, & Apostolica sua Chiesa. Ma passiamo à gli altri suoi fatti heroici, & attioni piene di carità.

Delle attioni heroiche memorabili per tutti li secoli fatte ad vtilità publica della Sede Apostolica, & Republica Christiana.

CAP. V.

IN mezo di tanti, & così fissi pensieri alle cose spirituali, non lasciò il prudentissimo Prencipe di prouedere anco alle temporali per seruitio del publico, & della Santa Sede Apostolica. Onde trà le prime cose, che gli vennero in pensiero nel principio del Ponteficato, fu il liberare i sudditi di Santa Chiesa dalle grauezze imposte loro per il passato, più tosto, che imporne delle nuoue. Si che in Roma con sommo contento del publico (per molti se-

F　gni,

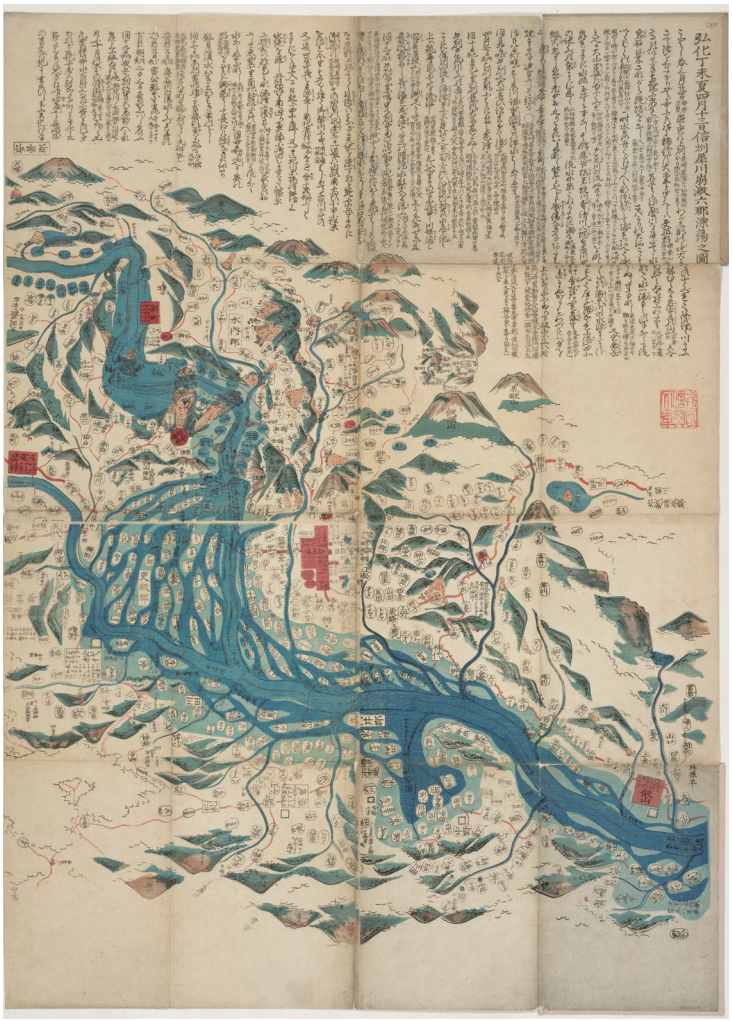


31　信濃国大地震諸届書

弘化４（1847）年

弘化４（1847）年３月24日に信濃国（現在の長野県）の善光寺平を震源としたマグニチュード7.4の地震が発生した。これを善光寺地震という。本書は、この善光寺地震の諸届書で、『新収日本地震史料』第５巻別巻6-1（東京大学地震研究所）に翻刻が収められている。

なお、この地震では虚空蔵山の山崩れにより犀川がせき止められて湖ができたが、同年４月13日にその湖が決壊して大洪水が発生した。その様子は「弘化丁未夏四月十三日信州犀川崩激六郡漂蕩之図」（参考）に描かれている。



参考　弘化丁未夏四月十三日信州犀川崩激六郡漂蕩之図　原昌言作

弘化４（1847）年刊

鯰舞の洒落

世直し鯰の情

鯰騒動

32 鯰絵（なまずえ）

江戸末期摺

安政2（1855）年10月に江戸を襲った大地震は大きな被害をもたらしたが、この安政大地震を契機に出版された鯰をモチーフとする浮世絵版画を一般に「鯰絵」と呼んでいる。描かれた内容は多様であるが、地震を起こした鯰に対する懲らしめを装いながらも、職人たちにとって鯰は復興景気によって世直しをもたらす存在として描かれるなど、災害という非日常の中での地震に対する庶民感情の変化を反映したものとなっている。当館では2枚続きのもの1種を含め、22種23枚の鯰絵を所蔵している。

東日本大震災以降、防災教育を目的とした利用が爆発的に増加しており、『防災教育補助教材3.11を忘れない』（東京都教育委員会）では、当館所蔵の画像を掲載している。

伊勢大神鯰をこらしめる

金持ちをゆすりにきたか大地震

町人に退治された鯰

33　延喜式（えんぎしき）　50巻20冊　藤原時平（ふじわらのときひら）, 藤原忠平（ふじわらのただひら）ほか撰

京：松栢堂林和泉掾, 明暦3（1657）年刊

「式」とは律令の施行細則のこと。延喜5（905）年醍醐天皇の勅により編纂に着手、完成奏上は延長5（927）年。これ以前の弘仁・貞観の二式を集成し諸司別に編成したもので、奈良平安時代の国家制度、文化・社会の詳細を知ることができる。

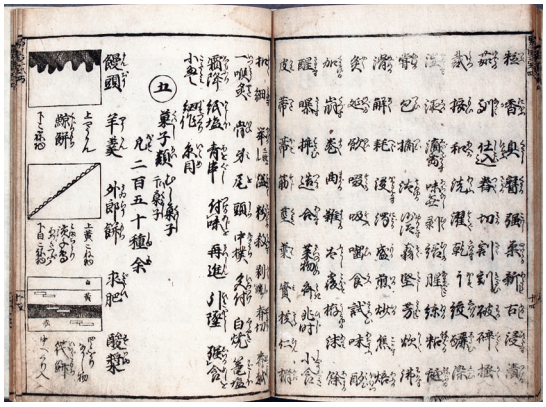
「諸国貢進菓子（しょこくこうしんのくだもの）」には、全国各地から朝廷に納められた「菓子（くだもの）」の名が記されており、甲斐国から「青梨子（あおなし）」、丹波国から「甘栗子（あまぐり）」等が献上されていたことがわかる。

34　男重宝記（なんちょうほうき）　5巻5冊　苗村常伯（なむらじょうはく）著

京：大和屋勘七良, 元禄6（1693）年刊

江戸時代の武士階級の男性向けにつくられた百科事典的な書物。挿絵が豊富で、身分制度や応接のしかた、茶の湯、生け花など、男性のたしなみとしての日常生活の基礎知識や作法などを学ぶことができる。

約250もの菓子の名も記されており、例えば「立田餅（たつたもち）」は断面が流水に紅葉をあしらった棹菓子（さおがし）である。「立田」とは在原業平（ありわらのなりひら）の句、「ちはやぶる　神代もきかず　竜田川　からくれなゐに　水くくるとは」にも詠まれた奈良県の紅葉の名所「竜田川」のことであり、茶席で菓子の銘を聞いて即座にその意味を悟るのが男性の教養の証（あかし）とされていた。



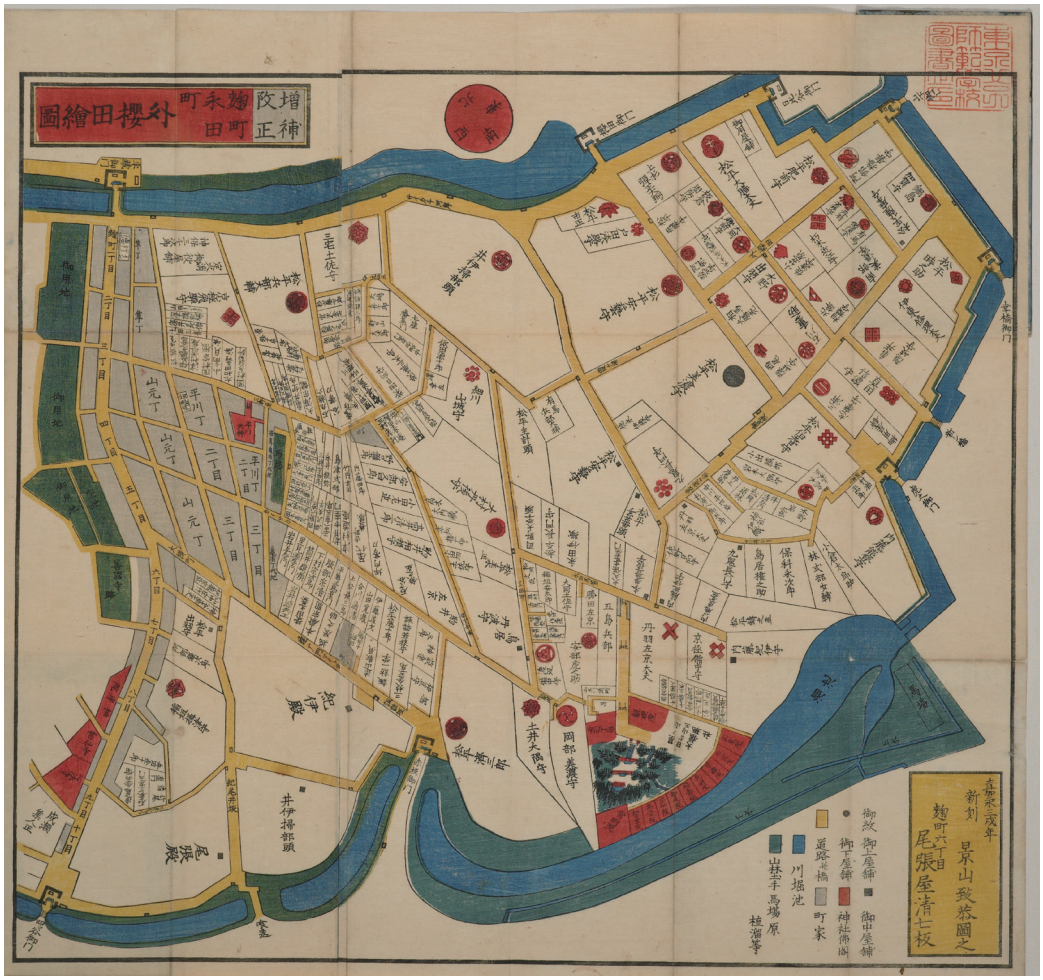
当館所蔵の『延喜式』と『男重宝記』は、共に平成18年12月8日NHK教育テレビ放送の「美の壺　和菓子」で放映された。その内容は、NHK出版から書籍『NHK美の壺　和菓子』、NHKエデュケーショナルからDVD『NHK美の壺Vol.3 和菓子・藍染め・古民家』として出版されている。

35　江戸切絵図

江戸：尾張屋清七，嘉永2-文久3（1849-1863）年刊

江戸をいくつかの区画に分けて描いた区分地図。切絵図は一枚ごとに縮尺も方位もバラバラで一定ではないが、徒歩で移動する際の体感距離が把握しやすく、記号や色分けによって何が描かれているかを示している。表札を出していなかった武家屋敷の住宅地図や江戸のガイドマップの役割も果たしていた。

当館で所蔵する尾張屋版の江戸切絵図は、色鮮やかな多色刷で人気が高く、再版や改訂版が多数存在する。当館では、30種34枚を所蔵し、全図の高精細画像を公開している。『東京ざっくり探訪：江戸切絵図と今』（学研パブリッシング）では、当館所蔵の30枚の画像が使用されている。



外桜田永田町絵図　嘉永3（1850）年刊

36　教育錦絵

東京：文部省，明治6（1873）年頃刊

明治6（1873）年の文部省布達により、幼児用絵解き教材として発行された一連の錦絵。浮世絵の木版技術を用いて制作され、その正確な総枚数は不明であるが、現在までに104種が確認されている。その内容は、住居の製造過程と関連する職人の仕事を紹介した「衣喰住之内家職幼絵解之図」や外国の発明家を紹介した「泰西偉人伝」などいくつかのシリーズに分けられる。

当館は95種を所蔵する国内有数の所蔵館であり、全画像をホームページから公開している。近年は、明治初期の職人の仕事や風俗を表す挿絵として使用されている他、本学日本美術史研究室による『筑波大学附属図書館所蔵『文部省発行教育錦絵』「泰西偉人伝」調査報告論文集』も作成されている。

1.　衣喰住之内家職幼絵解之図

衣

養蚕と繭　蚕

喰

稲　脱穀

茶摘の図

住

杉の生育方

普請場地ならし

鬼瓦・樋づくり・壁板の渋ぬり

2. 教訓道徳

狡戯をなす童男

3. 泰西偉人伝

空地烏徳（Wedgwood,Josiah 陶器）

4. 数理図

度量衡（2）

5. 立版古

西洋人形着せ替（2）

付録

図書館資料の翻刻・影印による出版等の取扱要項

〔平成20年10月14日
附属図書館長決定〕

「国立大学法人筑波大学附属図書館利用規程」（平成16年法人規程第37号）第13条に定める翻刻・影印による出版等の取扱について、必要な事項を以下のとおり定める。

（出版等の範囲）

1　出版等の範囲は以下のとおりとする。

（1）　出版

（2）　動画作成・放映

（3）　Web上での電子的掲載

（4）　展示パネルの作成・使用

（5）　その他附属図書館長が認めるもの

（申し込み）

2　出版等を行おうとする者（以下「申込者」という）は図書館資料使用申込書（別記様式第1号、以下「申込書」という）を附属図書館長に提出し、許可を受けなければならない。

3　申込者が、学校教育における授業等に利用するために小部数の配布資料を作成する場合は、申込書の提出を求めない。但し、以下の場合を除く。

（1）　授業の内容が講義録等として出版され、使用した画像も収録される場合

（2）　画像が収録された配布資料をWeb等で不特定多数に対して公開する場合

（許可書の交付）

4　附属図書館長は、出版等を許可する場合は、図書館資料使用許可書（別記様式第2号、以下「許可書」という）を申込者に交付する。

5　本学学内組織が出版等を行う場合は、特に申し出のない限り許可書の交付は行わない。

（全般的な許可条件）

6　附属図書館長は、出版等に次の条件を付して許可する。

（1）　教育・研究・調査のために使用すること。

（2）　申込に係る目的以外に使用しないこと。

（3）　著作権、肖像権に関する一切の責任は申込者が負うこと。

（4）　原本が筑波大学附属図書館の所蔵であることを、出版物等の中に適宜の方法によって表示すること。

（デジタルコンテンツ使用の許可条件）

7　申込者は、附属図書館が提供したデジタルコンテンツデータに対して、補正の域を超える大幅な改変を行なってはならない。

（出版の許可条件）

8　申込者は、当該翻刻本又は影印本が図書館資料の全部の内容を含む場合にあっては2部を、一部の内容を含む場合にあっては1部を、附属図書館に寄贈しなければならない。

（動画作成・放映の許可条件）

9　申込者は、作成・放映した動画の録画を1部附属図書館に寄贈しなければならない。

（担当）

10　翻刻・影印による出版等に関する事務は、情報サービス課相互利用係が行う。ただし、対象がデジタルコンテンツである場合のデータの取り扱い等は情報管理課電子図書館係が担当する。

附　記

この実施要綱は、平成20年10月14日から実施する。

別記様式第１号

図　書　館　資　料　使　用　申　込　書

平成　　年　　月　　日

筑波大学附属図書館長 殿

住所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

機関名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

下記のとおり、貴館所蔵資料の翻刻・影印による出版等での使用を申し込みます。
なお、使用にあたっては裏面記載の許可条件を厳守することを誓約いたします。

記

使用する資料

資料名：

出版年：　　請求記号：　　資料 ID：

使用箇所：

入手区分：　☐文献複写　☐撮影（☐済　☐予定　平成　　年　　月　　日）
☐デジタルコンテンツ　☐転載（転載元出版物：　　）

使用方法

使用目的：　☐出版　☐動画作成・放映　☐Web 上での電子的掲載　☐展示パネル
☐その他（　　）

掲載物名称(書名・誌名・出版者名／番組名／サイト名・URL／展示会名等)：

掲載予定日(出版予定日／放映日／公開予定日／展示期間等)：
平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日

その他(出版予定価格・部数／放送局名／サイト管理者名／主催者、展示場所等)：

別記様式第１号

筑波大学附属図書館所蔵資料を使用する理由
連絡先 氏名： 所属： 電話・FAX・E-Mail：

許可条件

１．全般的な許可条件

(1) 教育・研究・調査のために使用すること。

(2) 申込に係る目的以外に使用しないこと。

(3) 著作権、肖像権に関する一切の責任は申込者が負うこと。

(4) 原本が筑波大学附属図書館の所蔵であることを、出版物等の中に適宜の方法によって表示すること。

２．デジタルコンテンツ使用の許可条件

附属図書館が提供したデジタルコンテンツデータに対して、補正の域を超える大幅な改変を行なわないこと。

３．出版の許可条件

当該翻刻本又は影印本が図書館資料の全部の内容を含む場合にあっては２部を、一部の内容を含む場合にあっては１部を、附属図書館に寄贈すること。

４．動画作成・放映の許可条件

作成・放映した動画の録画を１部附属図書館に寄贈すること。

図書館資料使用申込書等による二次利用例

本リストは図録掲載資料を底本とする資料、翻刻･影印資料や放送番組等での利用例を掲載した。この他も様々な所蔵資料が利用されている。

表中の「●」は教科書・教材での利用、「★」は放送番組での利用、「◆」は底本としての利用、「▲」は展示会での利用、無印はその他となる。

資料番号	資料名	図書館資料使用申込等による利用（翻刻影印掲載資料、放送番組等）
1	南総里見八犬伝	● 社会科資料集6年 2014　文溪堂　2014年
4	グーテンベルク42行聖書零葉	人文学類案内 2006　筑波大学人文学類　2006年
		図書館情報メディア研究科パンフレット2010　筑波大学図書館情報メディア研究科　2010年
8	平家物語	◆ 復刻日本古典文学館 平家物語　全10冊　日本古典文学刊行会　1973-75年
10	絵本拾遺信長記	剣聖草深甚四郎　剣聖草深甚四郎編纂委員会編集　川北町（石川県）1990年
		★ 知ってるつもり？！　織田信長篇　日本テレビ系　2001年8月5日放送
		決定版・図説名言で読む日本史人物伝　学習研究社　2004年
11	解体新書	● 日本史A：現代からの歴史　東京書籍　2013年
		● 新選日本史B　東京書籍　2014年
14	新古今和歌集	◆ 新編日本古典文学全集 43　新古今和歌集　峯村文人校注・訳　小学館　1995年
		● ワイド＆ビジュアル最新国語資料集　明治図書出版　1999年
		中世・鎌倉の文学　佐藤智広，小井土守敏編　幹林書房　2002年
		● 新国語総合　改訂版　加藤周一［ほか］著　教育出版　2007年
15	種生伝	◆ 近世兼好伝集成　川平敏文編注　東洋文庫719　平凡社　2003年
16	足利義教袖判御教書（北野神社文書）	福井県史　資料編2　中世　1986年
		◆ 史料纂集　筑波大学所蔵文書（上）　北野神社文書　田沼睦校訂　続群書類従完成会　1997年
		中世花押の謎を解く：足利将軍家とその花押　上島有著　山川出版社　2004年
17	社家条々引付（北野社家日記）	NHK人間大学　茶の湯文化史　日本放送出版　1995年
		◆ 史料纂集　北野社家日記　第1-第8　竹内秀雄ほか校訂　続群書類従完成会（第8のみ八木書店）　1972-2011年
18	壬戌日暦（昌平坂学問所日記）	▲ 江戸は日本人を創った　湯島聖堂300年記念展　東急百貨店日本橋店　1990年8月31日-9月5日
		◆ 昌平坂学問所日記　全3巻　斯文会，橋本昭彦編　斯文会　1998-2006年
19	編纂本朝尊卑分脈図	◆ 定本丹鶴叢書 第36巻　編纂本朝尊卑分脈図脱漏　大空社　1998年
20	伊曽保物語	● ワイド＆ビジュアル最新国語資料集　明治図書出版　1999年
		★ NHKダーウィンが来た！　生きもの新伝説　NHK教育　2008年6月1日放送
21	続狂言記	◆ 続狂言記の研究　北原保雄，小林賢次著　勉誠社　1985年
		暮らしのことば擬音･擬態語辞典　山口仲美編　講談社　2003年
22	拾芥抄	マンガでわかる測量　栗原哲彦，佐藤安雄共著；吉野はるか作画　オーム社　2008年

資料番号	資料名	図書館資料使用申込等による利用（翻刻影印掲載資料、放送番組等）
23	東叡山名所	◆ 稀書複製会　第10期第3回　東叡山名所　米山堂　1937年
		菱川師宣作品集図録　菱川師宣記念館　1996年
24	女歌仙新抄	◆ 天理図書館善本叢書和書の部　第66巻　師宣政信絵本集　天理図書館善本叢書和書之部編集委員会編　天理大学出版部　1983年
25	琵琶行・長恨歌	◆ 白居易研究年報13号　筑波大学附属図書館所蔵『琵琶行･長恨歌』翻刻･解題　谷口孝介，西村知子　勉誠社　2012年
26	住吉物語絵巻	まんが・アニメの大常識（これだけは知っておきたい）　ポプラ社　2006年
		筑波大学比較文化学類への招待　2007年
		写真で読み解く語源大辞典　アカネ書房　2012年
27	常陸国風土記	ふくしまの歴史　ふくしまの歴史編纂委員会編　福島市教育委員会　2003年
		▲ ジオ･トラベルinいばらき　5億年の大地をめぐる旅　ミュージアムパーク茨城県自然博物館　2013年10月10日-2014年1月19日
		▲ 美浦に伝わる風土記の世界　常陸国風土記1300年記念　美浦村文化財センター　2013年11月12日-12月22日
28	官遊紀勝	◆ 渋江長伯著官遊紀勝 ： 注釈と余話　功刀利夫　2003年
		週刊江戸　68号　デアゴスティーニ・ジャパン　2011年
29	往昔越後国之図	地名の巨人吉田東伍 ： 大日本地名辞書の誕生　千田稔著　角川書店　2003年
		新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊　12　平安越後古図集成　堀健彦編　2008年
		絵図学入門　杉本史子［ほか］編　東京大学出版会　2011年
30	教皇グレゴリオ13世伝	遠藤周作と歩く「長崎巡礼」遠藤周作著 ； 芸術新潮編集部編　新潮社　2006年
		日本の100人　43号　大友宗麟　デアゴスティーニ・ジャパン　2006年
31	信濃国大地震諸届書	新収日本地震史料　第5巻別巻6-1　東京大学地震研究所　1988年
32	鯰絵	歴史としての3.11　河出書房新社　2012年
		● 防災教育補助教材3.11を忘れない　東京都教育委員会　2012年
		「つながり」の精神史　東島誠著　講談社現代新書　講談社　2012年
33 34	延喜式 男重宝記	★ 美の壺　和菓子　NHK教育テレビ　2007年12月8日放送
		NHK美の壺　和菓子　日本放送出版協会　2007年
		[DVD] NHK美の壺 Vol.3 和菓子・藍染め・古民家　NHKエデュケーショナル企画・制作　EMIミュージック・ジャパン（発売）　2007年
34	男重宝記	日本の近世　第11巻　中央公論社　1993年
35	江戸切絵図	週刊江戸　50, 67, 68, 76, 86, 89号　デアゴスティーニ・ジャパン　2010, 2011年
		東京ざっくり探訪 ： 江戸切絵図と今　学研パブリッシング　2012年
36	教育錦絵	★ TVチャンピオン2　壁塗り職人選手権　テレビ東京　2008年2月7日放送
		彩　No.27　日本塗装工業会　2009年
		知の伝達メディアの歴史研究 ： 教育史像の再構築　辻本雅史編　思文閣出版　2010年
		筑波大学附属図書館所蔵『文部省発行教育錦絵』「泰西偉人伝」調査報告論文集　筑波大学大学院日本美術史研究室（守屋研究室）　2014年

掲載資料一覧

資料番号	資料名	請求記号
1	南総里見八犬伝	ル156-15/貴
2	画本虫撰 ＜複製＞	911.19-Y13
3	神皇正統記 ＜複製＞	イ300-イ-541
参考	評註校訂神皇正統記	ヨ380-509
4	グーテンベルク42行聖書零葉（Gutenberg Bible : original leaf, ca. 1455.）	図情193.44-G97/貴
参考	グーテンベルク42行聖書 ファクシミリ版（Bibel Johann Gutenbergs. Facsim. ed.）	193-B41
5	古今和歌集	ル210-110/貴
6	前田本枕草子 ＜複製＞	イ300-58
参考	清少納言	ル175-2/貴
7	土左日記 ＜複製＞	イ300-イ-58
参考	土佐日記	ル170-1
8	平家物語	ル140-48/貴
9	北野天神縁起 ＜複製＞	ハ240-25
10	絵本拾遺信長記	ル152-6
11	解体新書	サ200-6/貴
12	坊っちゃん : 夏目漱石自筆全原稿 ＜複製＞	913.6-N58
参考	鵜籠	ル160-30
13	みだれ髪 ＜複製＞	ル106-270
14	新古今和歌集	ル210-77/貴
15	種生伝	タ500-20
16	足利義教袖判御教書（北野神社文書）	北野社/貴
17	社家条々引付（北野社家日記）	北野社/貴
18	壬戌日暦（昌平坂学問所日記）	昌平坂/貴
19	編纂本朝尊卑分脈図	タ120-7/貴
20	伊曽保物語	ル150-2
21	続狂言記	912.3-Z5
22	拾芥抄	イ200-9
23	東叡山名所	ネ306-147/貴
24	女歌仙新抄	ル218-17
25	琵琶行・長恨歌	ル335-54/貴
26	住吉物語絵巻	ル120-364/貴
27	常陸国風土記	213.1-N85
28	官遊紀勝	ネ308-10/貴
29	往昔越後国之図	ネ040-109
30	教皇グレゴリオ13世伝（Compendio delle heroiche, et gloriose attioni, et santa vita di Papa Greg. XIII.）	198.221-B39/貴
31	信濃国大地震諸届書	ム214-81
参考	弘化丁未夏四月十三日信州犀川崩激六郡漂蕩之図	ネ040-127
32	鯰絵	726.1-N47/貴
33	延喜式	ム212-7
34	男重宝記	イ420-500
35	江戸切絵図	ネ040-91
36	教育錦絵	ヘ950-宮196,197,204,376-Mo31

※附属図書館の貴重書は、請求記号の末尾に「/貴」と示した。
　請求記号の欄のうち、「図情」は図書館情報学図書館所蔵、その他は中央図書館の所蔵を示す。

企画

筑波大学附属図書館

中山　伸一（館長）

谷口　孝介（副館長・研究開発室長）

加藤　信哉（副館長）

篠塚　富士男（情報管理課）

附属図書館研究開発室

山澤　学（人文社会系准教授）

附属図書館企画展ワーキング・グループ

山本　淳一　（主査）

浅野　ゆう子

岩本　悠

大久保　明美

大曽根　美奈

薗部　明子

竹内　夏奈子

渡邉　朋子

篠塚　富士男

特別講演会「図書館を飛び出した書物たち」

平成 26 年 11 月 9 日（日）　13:30 ～ 15:30

講師　谷口　孝介（人文社会系教授）

＊後日、YouTube（UnivTsukubaLibrary）でも公開する予定です。

電子展示 Web

http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2014shomotsu/index.html

---

平成 26 年度　筑波大学附属図書館企画展

図書館を飛び出した書物たち

平成 26 年 10 月 20 日　　発行

発行　筑波大学附属図書館 ©2014
〒 305-8577　茨城県つくば市天王台 1-1-1
TEL 029-853-2376

印刷　前田印刷株式会社

筑波大学
University of Tsukuba